

水性ユータックA



「水性ユータックA」は特殊変性アクリル樹脂を使用した艶ありの水性塗り床材です。1液水性の低粘度タイプでローラー作業性に優れ、一般従業員の方々にも手軽にご使用いただけます。また、低温乾燥性にも優れ、取扱い易い製品です。



特長

- ①速乾性のため、施工後4時間で歩行が可能です(23℃)。また、低温時でも(10℃程度)翌日の歩行が可能です。
- ②特殊変性樹脂により強靱な塗膜を形成。高温環境下でも塗膜が軟化しにくく、耐摩耗性に優れています。
- ③低粘度タイプで温度による粘度変化が少ないため、通年を通してローラー塗装の作業性に優れています。
- ④ホルムアルデヒド放散等級がF☆☆☆☆である他、厚生労働省室内濃度指針値で定められている13種類の化学物質、鉛、クロムを使用していません。

主な用途

●=おすすめできる場所
○=使用可能な場所

- 機械室・電気室
- 台車・手押し車などの通行床
- 学校・病院・事務所・ホール・店舗・内部階段・廊下・食堂
- OAフロアー

容量

- ユータック水性カチオンプライマー………15kg、4kg
- ユータックECプライマー………16kgセット(A液:12kg B液:4kg)
4kgセット(A液:3kg B液:1kg)
- NT水性速乾プライマー………12kgセット(A液:3kg B液:9kg)
4kgセット(A液:1kg B液:3kg)
- 水性ユータックA………15kg、4kg
- 水性ユータックアクリヤー………15kg、4kg (OAフロアー向け)

色彩

標準色18色

●印刷のため、実際の仕上がりとは相違があります。ご了承ください。
●ライン用については最寄りの営業所へお問い合わせください。

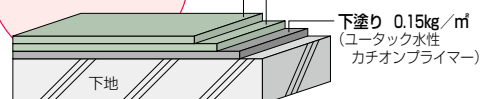


工法

●詳細については、最寄りの営業所までお問い合わせください。
●軽防滑仕様の場合、上塗りにNTマイクロ骨材を2%混入してください。
●屋外で使用する場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。

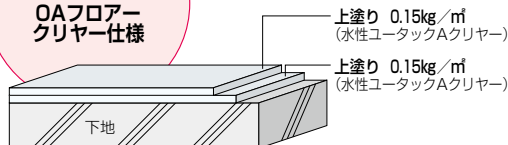
環境配慮工法

コーティング工法



環境配慮工法

コーティング工法 OAフロアー クリアー仕様



※OAフロアークリアー仕様には1回塗りの仕様もあります。

試験成績

●数値は代表値であり、保証値ではありません。

試験項目	試験結果	試験法
硬度	F	JIS K 5600 鉛筆硬度
付着性	25/25	JIS K 5600準拠 すきま間隔5mm
すべり抵抗性※1	0.97 (乾燥面)	日本塗料工業会試験法/C.S.R. (すべり抵抗係数)
	0.81 (湿潤面)	
すべり抵抗性※2	87 (乾燥面)	BPN測定値 (ポータブルスキッドレジスタンステスター)
	22 (湿潤面)	
耐候性	良好	キセノンウェザーメーター1,000時間

■※1 C.S.R.値とすべりの程度の関係

C.S.R.	すべりの程度	C.S.R.	すべりの程度
∞~1.0	きわめてすべらない	0.6以下~0.4	すこしすべる
1.0以下~0.8	かなりすべらない	0.4以下~0.2	かなりすべる
0.8以下~0.6	あまりすべらない	0.2以下	きわめてすべる

注/評価範囲は上限数値以下で、下限数値を含みません。

■※2 BPN測定値(ポータブルスキッドレジスタンステスター)とすべり程度の関係

濡れた路面すべり抵抗	すべり抵抗標準
65以上	良好:高速走行でも必要条件を満たしすべり事故を繰り返さないようなところ
55以上	概して満足:非常に悪い条件がなければ満足できる。
45以上	良好な環境条件においてのみ満足
45以下	善しくすべりやすい

■水性ユータックA コーティング工法 標準施工仕様書

工程	塗料名	希釈剤	希釈率	施工方法	使用量 (kg/㎡)	施工間隔 (23℃)
素地調整	●下記注意事項を参照してください。					
下塗り	●ユータック水性カチオンプライマー	無希釈	—	●ローラー ●刷毛	0.15	2時間以上 72時間以内
上塗り (1回目)	●水性ユータックA	水	0～10%	●ローラー ●刷毛	0.15	2時間以上 72時間以内
上塗り (2回目)	●水性ユータックA	水	0～10%	●ローラー ●刷毛	0.15	歩行可能：4時間以上 養生時間：48時間以上

■水性ユータックA使用上の注意事項 ●施工にあたっては、カタログ及び、製品ラベルに記載の注意事項をよく読んでご使用ください。

■施工下地の注意事項

- 新設、改修工事ともに、下地処理は必ず行ってください。
- 下地のモルタル、コンクリートは金ゴテで平滑に仕上げてください。
- 強化コンクリートやカラーコンクリート、フェコン等、機械仕上げの緻密なコンクリートなどへ施工する場合は、最寄りの営業所までお問い合わせください。
- コンクリート、モルタルの打設後の養生期間は、夏場3週間、冬場4週間を目安としてください。
- コンクリートは、十分に乾燥していることを確認してください（「ケット水分計：HI-520シリーズ」のコンクリートレンジの表示値5%以下が目安です）。
- 施工するコンクリート床面下の防湿層の有無を確認してください。防湿層がない場合、フクレが発生する場合があります。防湿層がない場合には設計、元請、施工業者で必ず対策を協議してください。
- レタンスや既存塗膜、脆弱な下地は、ライナックスなどの研削機や研磨紙付きポリリッシャーなどの研磨機で除去し、清掃を行ってください。
- ゴミ、ホコリ、油脂類は、完全に除去してください。
- 金属面には施工しないでください。金属部にはそれぞれに適した下塗りをご使用ください。
- 磁器タイル、大理石、れんがなどへの施工は避けてください。
- 塩ビシート、パイプなど可塑剤を含む基材、プラスチックには施工できません。
- シリコン系の材料やワックスが施工面に無いか確認してください。これらの成分が床面にあったり、施工作業の近くでシリコン系スプレーが使用され、施工面に付着すると、ハジキなどのクレームにつながります。
- 既存塗膜に施工する場合は、既存塗膜が下地に対して十分に付着していることを確認し、試験施工を行い問題が無いことを確認してからご使用ください。施工の際は、必ず研磨紙付きポリリッシャーなどによる研磨などの下地処理を行ってください。
- 「NTカチオンタイトF」や「NTカチオンファイラー」などのカチオン系下地調整材は使用しないでください。
- 既存塗膜や基材に、ワックスや油分が残っている場合は、クリーナーなどを用いて完全に除去したのち、研削機や研磨紙付きポリリッシャーなどで必ず研磨してください。
- ひび割れがある場合、そのまま塗料を施工してもひび割れを隠へてきません。また、施工後に今まで見えなかったひび割れが見えるようになる場合があります。このため、あらかじめ下地を確認し、ひび割れや目地は、エポキシパテなど適切な材料で処理してください。
- 欠損部、段差などの凹凸部分、巣穴などは、「NTエポキシパテ」や、必要に応じて珪砂などを混合した「ユータックE-30N」や「ユータックE素地調整材ECOグレー」などを使用して平滑にしてください。
- 下地の状態により上塗りの仕上りが変わります。下地の状態を均一にしてください。
- 「水性ユータックA」は薄膜塗料のため、コンクリート表面状態（凹凸やひび割れなど）やパテなどの処理状態がそのまま出る場合があります。また、目粗しの跡（下地処理の際の研磨跡）が見える場合があります。下地処理には充分注意すると同時に、顧客への説明を行ってください。
- 製品の取り扱いの際は、塗料は用途・用法を守り、「製品案内ニットの塗り床材 ユータックシリーズ」や個別カタログ、標準施工仕様書、SDSをよくお読みになり正しくご使用ください。
- 記載が無い事項については、公共建築工事標準仕様書および同監理指針、公共建築工事改修工事標準仕様書および同指針や塗り床ハンドブック（日本塗料床工業会）を参照ください。

■施工環境に関する注意事項

- 気温5℃以下、湿度80%以上の施工は避けてください。
- 屋外施工において、施工当日から翌日にかけて結露や強風、降雨、降雪、降霜が予測される場合は施工を避けてください。
- 未乾燥（未硬化）状態の塗膜に雨や夜露、結露が当たると、艶引けや造膜不良、白化、付着不良、変色などの不具合が生じる恐れがあります。
- 結露の発生する恐れのある場所や換気が不十分な場所での施工は避けてください。
- 冬季や夜間に気温が低下した時は硬化乾燥に時間がかかるため、作業時間を考慮してください。5℃以下の低温下では塗膜の硬化乾燥が遅くなり、施工間隔や養生時間が変わります。結露

- などの水分の影響を受けやすくなるため、施工後の温湿度管理にも注意を払ってください。
- 高湿度下では乾燥が遅くなります。換気の悪い環境では湿度が高くなります。送風機などを用いて環境の改善を行ってください。
- 施工現場の条件が上記条件を外れる場合、施工を取りやめるか、ヒーター、送風機、スポットクーラー、除湿機などを用いて、施工現場の温湿度、および材料の温度を適正な状態に保つよう処置を行ってください。
- 外部と接している出入り口や開口部、窓周辺は、屋内でも屋外と同じような条件になる場合があります。また、風の吹き込みや結露などの水分の影響を受け、その周辺の塗膜に白化や光沢変化など影響が出る場合があります。塗料をご使用の前に必ず、現場を確認し、それぞれに対応した処置を行ってください。また、状況によっては施工を中止してください。
- 施工時は、できるだけ粉塵やゴミが舞わない環境にしてください。養生期間中にそれらが付着すると、仕上りに影響します。

■塗料の仕様・調合に関わる事項

- 他の塗料とは混合しないでください。
- 塗料は調合時や使用前、小分けして使用する場合は、あらかじめ塗料缶の内容物を均一になるようにかくはんしてから、施工や小分けを行ってください。
- 塗料の調合は、必ず、秤を用いて標準施工仕様書の配合比で調合し、電動かくはん機などで充分にかくはんしてから施工してください。
- 希釈割合は守ってください。仕様以上の希釈は、隠ぺい性が悪くばかりでなく、造膜性低下や性能低下につながります。
- 塗料の種類によりかくはん機の選定を行ってください。回転が速い、羽の形状が異なるなどの条件によっては、混合かくはん中に泡を巻き込み施工後に泡が残ることがあります。また、かくはんの際に泡が立たないように注意して行ってください。かくはん時間が長すぎても泡の発生につながります。
- 「ユータック水性カチオンプライマー」を小分けする場合はポリ容器をお使いください。（鉄製、プリキ製は腐食します。）
- 他の塗料が入っていた缶などは使いまわしをしないでください。小分けして使用する際は、都度、新品の缶を用いるか、きれいに洗浄、乾燥を行った後に使用してください。
- ユータック水性カチオンプライマーは水希釈しないでください。
- ユータック水性カチオンプライマーと水性ユータックAを混合しますと、ゲル化、ブツ発生などの原因となります。施工の前後には塗装器具を水で充分に洗浄してください。また、小分けして使用したユータック水性カチオンプライマーは元の製品に入っている石油缶に戻さないでください。

■施工に関する注意事項

- 仕様書に書かれている、施工間隔、使用量は標準的なものであり、下地の状態や形状、施工条件、気象条件などにより幅を生じることがあります。
- 規定の使用量が塗られていないと、塗膜性能が発揮されない場合がありますので仕様書の使用量を守って塗装してください。
- 吸い込みの多い下地の場合には、「ユータック水性カチオンプライマー」を増し塗りしてください。プライマーの使用量は濡れ色になるまでを目安としてください。
- 「ユータック水性カチオンプライマー」や「水性ユータックA」は薄膜の塗料ですので、下地の吸い込みや、下地処理の違いにより、仕上りムラが発生する場合があります。
- 塗料は塗料たまりができにくいように施工してください。塗料たまりが出来た場合は、刷毛やローラーで余剰塗料を取り除いてください。厚塗りやたまりができると硬化乾燥が遅れるため、塗膜のフクレやはく離の原因になります。
- 各工程において、施工間隔（塗り重ね時間）を守ってください。施工間隔は、気温や湿度により変わります。また、施工間隔があくと付着性が悪くなります。現場の状況や塗膜の硬化乾燥状況を確認しながら施工してください。
- 「ユータック水性カチオンプライマー」や「水性ユータックA」は水性塗料なので、低温や高湿度下、換気が悪い状況では乾燥が遅くなります。
- 水性塗料を重ね塗りする場合、下層の塗膜が充分に硬化乾燥していることを確認してから施工してください。硬化乾燥が不十分な状態で重ね塗りすると、次工程の硬化乾燥が著しく遅延し、軟質の塗膜となって、割れやはく離の原因となります。
- ローラーと刷毛など施工方法が異なる場合、使用量、表面肌が異なることで若干色相や仕上に差が出る場合があります。

- 特に補修塗りを行う際は最小範囲でおさめ、目立ちにくくなるよう施工してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように行ってください。ローラー目の方向により色や仕上りが異なって見える場合があります。
- ローラー施工する場合、ローラーの種類によってはローラーの毛が取れて塗膜に混入することがあります。ローラーの選定には充分ご注意ください。
- 色相によっては2回塗りでは隠ぺいしない場合があります。その場合は、一度に多くの使用量で施工せず、施工回数を増やしてください。
- 塗り残しのないように施工してください。
- 「ユータック水性カチオンプライマー」にクリアー塗料の使用は避けてください。紫外線の透過によりシーラー層が劣化し、はく離の原因になります。
- 床面に貼り付けたラインテープを取り除く際に塗膜がはく離する場合があります。

■取り扱い上の注意事項

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合ABC粉末消火器にて消火するなど適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 安全衛生上の観点から、取り扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋、および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 容器（取っ手を含む）はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときは、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗いおよびうがいを充分に行ってください。
- 目に入った場合は多量の水で洗い、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 誤って口に入った場合は、口を水でよくすすぎ、すみやかに医師の手当てを受けてください。飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着した場合は、多量の水で洗い流したのち中性石鹸と水で充分に洗ってください。痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。作業着などに付着した場合はすみやかに着替えを行ってください。
- 皮膚障害、呼吸障害がみられる場合は、医師の診断を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 本製品の保管は必ずフタをし、雨露や直射日光の当たらない換気の良い室温5℃以上、35℃以上にならない屋内で保管してください。現場で材料を保管する場合は、直射日光や雨露が当たらない、風通しの良い涼しい場所で保管してください。
- 水性塗料は5℃以下で保管すると凍結の恐れがあります。一度凍結した塗料は、仕上り不良、物性低下、割れなどの不具合の原因となります。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 塗装器具等を洗浄した水等を河川や湖沼へ流さないでください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品は、揮発性の化学物質を含有しています。あらかじめ元請や施主への説明を行い、了解を得てください。他の空間に揮発成分が流入しないように養生を行ってください。また、化学物質過敏症やアレルギー体質の方がいる場合には本製品との接触や施工を避けてください。
- 本製品の取り扱い並びに輸送及び保管については、労働安全衛生法や消防法、道路運送車両法、船舶安全法、港則法などの各種適用法令を遵守してください。
- 製品をご使用の際は、必ず、警告ラベル、安全データシート（SDS）をご参照ください。

* 製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

■お問い合わせ先

東京営業所 ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323 大阪営業所 ☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
神奈川営業所 ☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739 中四国営業所 ☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
中部営業所 ☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124 九州営業所 ☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762